

した。

3. 1)刺し方の相違により八刺し方向の長さが変化する。従ってラベル部位の衿付線位置の縫代を芯地の種類によって調整する必要があるものと考えられる。2)刺し方の相違により曲げ剛さが異なる。従ってシルエットの目的により八刺し方法を選択すべきと思われる。3)芯地の曲げ剛さと八刺し後の曲げ剛さの関係は、ミシン八刺しを行なった場合の曲げ剛さに高度な相関関係が得られた。

## C-68 衿の折り返りに関する研究(第2報) —八刺し方向におよぼす刺し方の影響—

秋田聖霊短大 ○豊間 和子  
高橋 紀子  
佐藤 衛子

1. 第1報で衿の折り返り線を美しく仕上げるための要素をとりあげ、織物の方向性に基づいて八刺し方向の解析を行なった。その結果ラベル部分の折り先き点の相違により折り山線角度が異なる。従って左右の身頃の折り山線角度が異なり八刺し方向が変化する。裏衿部分は、ラベル部分の八刺し角度より複雑な角度方向を示す。一方基礎実験では、折り山線角度方向のバイヤス地の伸び率と曲げ剛さが折り山線の形態に関係することなどがわかった。今回は、折り山線の形態が決まる要素の一つである八刺し方法につき、従来から行なわれている手縫い八刺しの他に、定量的に行なわれるミシン八刺しの方法を用い、両方法の相違点について検討した。

2. 折り山線角度方向のバイヤス地は、折り山線角度が $60^\circ$ と $75^\circ$ の場合と反対側の $105^\circ$ と $120^\circ$ を選び、手縫い八刺しとミシン八刺しを行ない、それぞれの刺し方によって生ずる物理的性能の変化を相関係数を求めて検討